

農村に定住する作家と地域コミュニティとの交流に関する研究*

A Basic study on the Relation between New Inhabitant—Artists and Local Community

高村 恵多** ・ 吉武 哲信***

By Keita KOHMURA ,Testunobu YOSHITAKE

1. はじめに

著者らは先に、宮崎県東諸県郡綾町において、外部参入者として独特の価値観を有す作家（陶芸や木工、作家など創作活動で生計を立てている人々）に着目し、彼らが定住することに関連した住民の意識変化や交流の深化過程に関し検討を行なった¹⁾。この結果、作家と住民の間に交流の深化によるパーソナリティの変化の内容や交流に対する意識変化に相違があること、しかし全体としては、作家との交流がコミュニティの活性化に有意義であることなどを明らかにした。

しかし、この研究は一地域のみを対象としたもので、対象地域の地理的条件や住民気質などの地域特性に大きく影響を受けている可能性が指摘できる。また、綾町では作家の定住に対していくつかの優遇施策を行っており、それが交流の内容や効果に大きく影響しているとも考えられる。これらの問題を明らかにするため、本稿では綾町と同様に、作家が多く居住する他の地域を対象として、同様の分析を行なうものである。対象地域は、福岡県糸島郡志摩町である。

2. 調査の枠組み

交流の内容やコミュニティ活性化をいかにとらえるかについて説明する。まず、交流の内容については、本研究では地域計画上の観点から地域住民と作家の間に交流が生まれているか、あるいはどのような場が重要であるか、そして施策的に関与しう

るかに興味がある。そこで、特定の個人間の交流ではなく、交流相手を念頭においた交流の場について把握する。アンケート調査の内容について表-1に示す。主として住民、作家がそれぞれ相手とよく交流している場（日常生活、地区会、イベントなど）、互いの交流を促進させていると思う場、互いの交流の場形成の役割を担うべき組織（地区会、行政、作家グループなど）を設定している。

また、交流の効果としてのコミュニティ活性化については、表-1のように積極的意識の形成の基礎となる新たな価値観の生成や、コミュニティの成立の基礎である役割意識とそれに基づく行動、またそれらの変化について把握する。さらに、交流にともなうパーソナリティの変化を Johari の窓の概念²⁾にしたがって把握する。

3. 志摩町の概要

(1) 社会経済的状況

福岡県糸島郡志摩町は、福岡市中心部から西に車で約1時間の位置にある（図-1参照）。位置的には大都市近郊にあたるが、JR筑肥線や国道202号線は町内を通過しておらず、南部の前原市を経由する必要がある。このため、都市近郊型の開発は周辺地域に比べ進んでいない。

土地利用については、総面積 54.49km²のうち田畑・山林は約 69%におよぶ。前原市に隣接する南部では新興住宅地が整備され、また西部の海沿い地域では福岡市民が持つ別荘地が多い。しかし、北部の海沿いの地域は漁村であり、残りのほとんどが田畑に囲まれた集落として点在している。全体としては農村の性格を持つものである。

図-2は国勢調査による人口を昭和55年～平成

* キーワーズ：農村計画、意識分析調査、地域振興

** 学生員 宮崎大学大学院工学研究科（宮崎市学園木花台西1-1 tel.(0985)58-2811 fax(0985)58-1673)

*** 正員 工博 宮崎大学助教授 工学部土木環境工学科

表－１ アンケート調査内容

交流の場	・ 交流の場（日常生活、自治会、イベントなど） ・ 交流が促進すると思われる場 ・ 交流の場を作るのに重要と思われる組織
意識・行動の変化	・ 地区会、町づくり活動への関心 ・ 町づくり活動における共通目標の存在 ・ 活動状況の変化（創作家定住当初と現在の比較） ・ 地元の長所、短所の認識 ・ 新たな価値観の出現 ・ 交流を通じた地元の良さの発見
交流の深化（Johari の窓）	・ 生き方への共感 ・ お互いの共通点（創作家定住当初と現在の比較） ・ 相手からの指摘による認識変化 ・ 交流の積極性 ・ 交流の不安 ・ 相手への指摘

7年度について、隣接する前原市、二丈町と合わせて示したものである。図より志摩町の人口は少しずつ増加しており、平成7年で17,599人に達している。これは、近年福岡市への通勤圏に組み込まれつつあることを示している。

産業別人口を、同様の市町について図－3に示す。志摩町は隣接市町に比べて、1次産業（農漁業）に従事する人の割合は多い。また、前原市は既に福岡市の通勤圏としての性格が大きく、二丈町もその性格を有しているといえよう。

（2）創作家の定住の経緯と現況

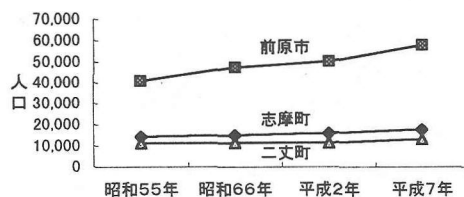
創作家の定住は約25年前から始まっている。これらは個々の創作家が個別に移住してきたもので、土地の確保や財政支援などについて行政的な優遇処置は一切はない。この点は綾町とは大きく異なるところである。創作家の数については、現在町が把握しているもので11工房ある。これらの工房は町が主催するイベント「志摩の5月」での「工房めぐり」を行なう関係で、町と連絡を持つものである。また、創作家相互の連絡の場としては、ようやく協議会設置の動きがみられるところである。この他にも工芸活動や文芸活動を行なっている者も存在しているが、町は正確な創作家の数を把握していないのが現状である。

4. 分析

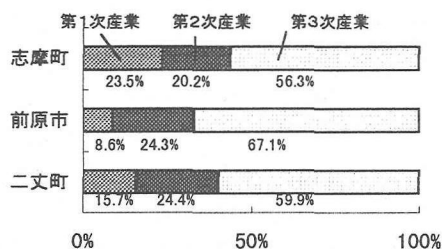
（1）調査の概要



図－1 志摩町周辺地図



図－2 志摩町周辺の人口推移



図－3 志摩町周辺の産業別就業者人口

住民と創作家の両者にアンケート調査およびヒアリング調査を、行政職員に対してはヒアリング調査を行なった。アンケート調査は、平成9年6月初旬に行なった。基本的に訪問留置訪問回収としたが、現地調査の3日間で未回収のものは郵送回収とした。調査対象の創作家は町外からの転入者で、先述の11工房とした。また、調査対象の住民については新興住宅地、別荘地を除いた地域の住民とした。

アンケートの回収状況を表－2に示す。住民への調査の際、創作家との交流がないのでアンケート調査には答えようがないという人が多く、実際には配布枚数の2倍以上の世帯にアンケートをお願いしている。また表－2に示すように、回収できた103票のうち、18.4%(19票)が創作家と交流がないため無効票となっており、このことから創作家と住民

の交流の少ないことがわかる。表－3には住民の回答者属性を示しているが、年齢、性別の観点から偏りはさほどないと判断出来る。

アンケートに回答した作家の属性を表－4に示す。活動分野は、ほとんどが陶芸で、その他ガラス工芸や染織などがある。佐賀県の唐津市や伊万里市に対象地域に近いことも影響していることが彼らの居住履歴からもうかがえる。志摩町での居住年数は、最も長い人で26年であるが、ほとんどが15年未満である。また、出身地をからはほとんどの作家が福岡県に何らかの関わりを持っていることがわかる。ただし、これらの作家はすべて志摩町外の居住経験を持っており、地域にとっては異文化を持つ者としてよいと判断できる。

(2) ヒアリング調査

住民のヒアリング調査からは、作家との交流は予想以上に少ないことがわかった。また、「挨拶をしてもしてくれない」や「工房の来客が農道に駐車して困っている」などの意見もあり、作家への不満も大きいことがうかがえた。

また、作家のヒアリング調査から、「定住した当時住民の方に挨拶してもらえなかったが、自治会活動に参加するようになって、住民との交流が促進された」という人や、逆に「住民との交流に関心が全くない」との声もあることがわかった。

(3) アンケート分析結果

住民、および作家が、相手と交流をよく行っていると考えている場について図－4に示す。住民はイベント・祭りと回答した者が最も多いのに対し、作家は日常と答える人が最も多く、次いでイベント・祭りをあげる人が多い。イベントについては作家主催のものと地元主催のものの二つを回答肢として用意したが作家主催のイベントをあげるものはいなかった。住民と作家の認識のズレは両者のコミュニケーションが十分でないことを示す。

住民、および作家が交流の場の形成に重要と考えている組織を図－5に示す。作家は創作仲間と回答したものが最も多いが、住民は行政と答えたものが最も多い。ヒアリング調査で明らかになった作家との交流が円滑に行なわれていないことを考

表－2 アンケートの回収状況

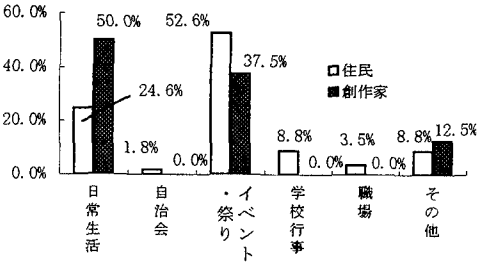
	配布票数	回収票数	有効回答率(率)
住 民	138	103	67(65.0%)
作家	10	8	8(100.0%)

(有効回答率) = (有効回答数) / (回収票数)

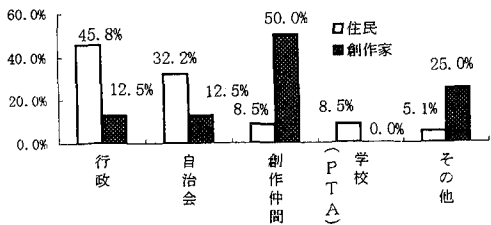
表－3 回答者の属性 (性別、年齢)

年 齢	男	女
20代	0人(0.0%)	2人(6.5%)
30代	8人(22.2%)	7人(22.6%)
40代	14人(38.9%)	15人(48.4%)
50代	4人(11.1%)	1人(3.2%)
60代	8人(22.2%)	2人(6.5%)
70代	2人(5.6%)	3人(9.7%)
80代	0人(0.0%)	1人(3.2%)
合 計	36人(100.0%)	31人(100.0%)

実数はアンケート回答者、()内は行政把握の11工房。
また、志摩町との関係で本人・配偶者ともに志摩町出身の場合は本人志摩町出身に含む。



図－4 相手とよく交流している場



図－5 交流の場を形成するのに重要な機関

えあわせると、住民は作家にむしろ期待していないと解釈した方がよいだろう。また、作家については、現在作家の協議会を作ろうという動きなどから、行政ではなく自分たちでという気持ちが強いのではないかと考えられる。

イベントは作家、住民、行政それぞれが開催しうるものであるが、それが交流を促進しうるかに関し問った結果を図－6に示す。地元のイベント・祭りについては、住民・作家の双方ともに評価していることがわかる。しかし、作家主催によるイベントについては住民、作家ともに評価が分かれた。作家単独主催のイベントについては内容や対象者に関し、吟味が必要だろう。

次に、交流の効果としてコミュニティの活性化を自身の役割認識から明らかにする（表－4参照）。表より、住民については、役割の認識が作家の定住時と現在の役割としては、「やや担っている」と考えている者が多いことがわかる。作家については、役割認識が積極側に変化している者が非常に多い。また、現在、「非常に」・「やや」担っているをあわせれば、82.5%の者が役割認識を持っているといえる。

また、図には示していないが、住民については、コミュニティ活性化を判断するものとして作家との交流を通じての地域の良さを認識したかを問ったが、設問に回答した人のうち、63人中23人（36.5%）が認識したと答え、作家との交流により、住民の価値観変化が起こっていることがわかる。

5. 考察

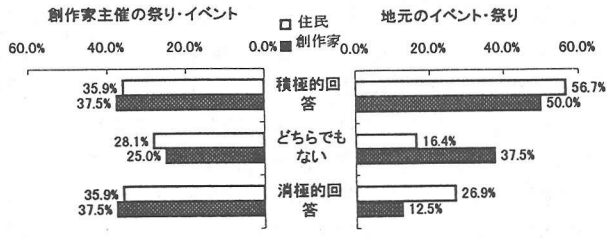
志摩町と綾町では、地理的条件や住民性など多くの違いが考えられるが、ここでは両町で大きく異なる行政の役割について、アンケート分析結果から比較検討してみよう。

綾町では行政が、作家の移住の際の土地の紹介、地権者との交渉、それに付随した地区会活動の情報提供およびアドバイス、作家の組合への補助、観光目的とした作家の拠点施設の整備などを行なっている。この結果、こうした行政の関与は作家の意識や住民の意識に影響を与えていると考えられる。例えば、図－5に示したように、交流の場の形成に重要な組織として、志摩町の作家は創作仲間をあげる者が多い。他方、図－7で示す綾町の作家は自身に加え、行政もあげている。志摩町では行政が全く関与していないために、作家も行政に期待しておらず、綾町では行政機能を作家が評価しているとも解釈できる。

以上、ヒアリング調査で明らかになった住民の作家への不満などを考えあわせれば、コミュニティの維持には積極的な施策の展開が必要と考えられる。

6. おわりに

住民の意識変化や Johari の窓の概念を用いた交



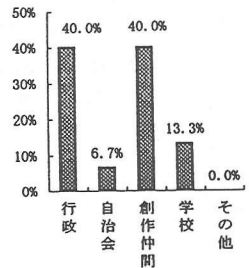
図－6 地域のイベント、作家のイベントによる交流の促進

注. 積極回答…「非常に・やや促進させる」
 どちらでもない…「どちらともいえない」
 消極回答…「あまり・全く促進させない」

表－4 現在の町づくりの役割の認識とその変化

現在の自身の役割認識	住民	作家
非常に担っていると感じている	1.5%	25.0%
やや担っていると感じている	3.1%	0.0%
どちらともいえない	0.0%	0.0%
あまり担っていないと感じている	7.7%	50.0%
全く担っていないと感じている	32.3%	0.0%
	0.0%	12.5%
非常に担っていると感じている	9.2%	12.5%
やや担っていると感じている	13.8%	0.0%
どちらともいえない	0.0%	0.0%
あまり担っていないと感じている	0.0%	0.0%
全く担っていないと感じている	12.3%	0.0%
	6.2%	0.0%
非常に担っていると感じている	0.0%	0.0%
やや担っていると感じている	0.0%	0.0%
どちらともいえない	0.0%	0.0%
あまり担っていないと感じている	0.0%	0.0%
全く担っていないと感じている	13.8%	0.0%
	0.0%	0.0%

注. 上段…積極変化
 中段…変化なし
 下段…消極変化



図－7 交流の場形成に重要な機関（綾町作家）

流の深化の検討、数量化Ⅲ類やそれに伴うクラスター分析の結果等については講演時に発表する予定である。

《参考文献》

- 1) 倉員ほか：農村で定住する作家と地域コミュニティの関係に関する基礎的研究、土木計画学研究・講演集 No.19(2), pp.597－600,1996.
- 2) 岡田ほか：過疎地域のコミュニティ活性化に関する基礎的分析、土木計画学研究・講演集、No.12, pp.151－158,1989.